

シミュレーション複視による階段昇降への影響

視能訓練士学科 3 年制

碓山 美優, 鍵本 佑奈, 末廣 千愛, 長谷 和佳那, 藤村 美花, 宮前 美風

【背景】 後天性眼球運動障害による複視は転倒リスクを増加させることが報告されているが, 階段昇降時間に影響する複視(斜視)の型や程度についての先行研究はない.

【対象者および方法】 器質的眼疾患のない視能訓練士学科 3 年生女性 5 名を対象とした. 方法は, 複視のない状態とプリズムレンズによる複視(同側性及び上下)のシミュレーション下(5~25△の 5 段階)で 16 段の階段昇降時間を計測し比較検討した.

【結果】 同側性複視では複視なしと比較して, 昇りでは全プリズム度数で階段昇降時間に有意差はなかったが, 降りでは 15, 20△で有意に延長した. 上下複視では複視なしと比較して, 昇りでは 10, 20, 25△で有意に延長し, 降りでは全プリズム度数で有意に延長した.

【結論】 同側性複視の昇りは影響を与えないが, 降り 15, 20△, 上下複視の昇り 10, 20, 25△, 降りは 5~25△で影響を与え階段昇降時間が延長する. また各カテゴリーの中で最も統計的に有意であったのは, 同側性複視の降り 20△, 上下複視の昇り 10△, 降り 10△であった.

1) 大牟禮和代・他: 後天性眼球運動障害の複視によって起こる日常生活の不自由度について. 日本視能訓練士協会誌. 32, 2003, 131-137.

2) 中村兼治・他: Eye movement training and gaze analysis for a patient with binocular diplopia after traumatic brain injury. Journal of Medical Case Reports. 17, 2023, 551.